

(広報資料)

平成30年度 交通事業決算概要

令和元年7月31日
京都市交通局

担当: 交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

自動車運送事業

1 決算概要

○ 安全・安心を最優先に、市バスの混雑対策など、お客様の更なる利便性の向上を図る取組を推進

- 安全・安心を最優先に、宿泊税を活用した市バスの混雑対策や、地域主体のMMと一体となった生活路線・ダイヤの拡充、魅力あるバス待ち環境の創出など、市民をはじめ、日常生活での御利用者を中心としたお客様の更なる利便性の向上を図る取組を推進

○ 1日当たりお客様数は36万4千人(地下鉄と合わせて76万1千人)

過去最高であった昨年度より
5千6百人増

自然災害△2千人/日

- 定期を御利用されるお客様が着実に増加した一方で、市バスから地下鉄への利用促進に取り組んだことに加え、地震、豪雨、台風などの大規模な自然災害の発生により、定期利用以外のお客様が大きく減少

「地下鉄・バス一日券」の発売枚数 約3倍

○ 経常損益は19億円の黒字(前年度比4億円減)も、今後は極めて厳しい経営見通し

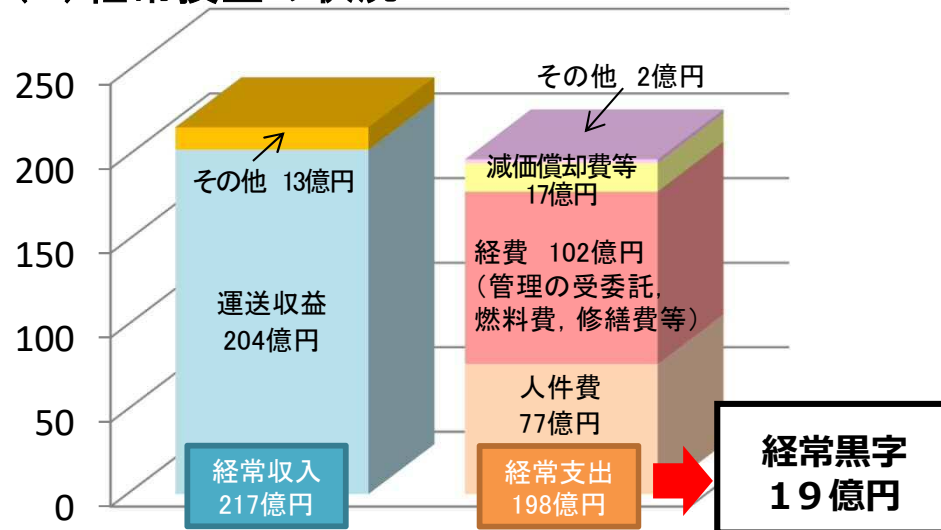
- 軽油価格の高騰に伴う燃料費の増や人件費の増(30年3月の輸送力の増強、管理の受委託における民間事業者の撤退等に伴う直営拡大)があったものの、バス一日券の価格適正化やこれを契機としたIC利用の促進等に伴い、1人当たり乗車運賃が上昇し、経常収入が前年度より増加したことから、経常損益は19億円の黒字を確保
- 今後、バス運転士や整備士の担い手不足の影響や軽油価格の高騰、多額の車両・設備の更新費用等、極めて厳しい経営

○ 今後10年間の経営計画として「経営ビジョン」を策定

今後10年間で、220億円もの更新費用が必要(530両の車両更新など)

- 市バス・地下鉄を将来にわたり安定的に運営し、「市民の足」としての役割をしっかりと果たしていくことができるよう、令和元年度から10年間で計画期間とする「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」を31年3月に策定

(1) 経常損益の状況



(2) 決算の主要数値

	29年度	30年度	差引増△減
在籍車両数	818両	818両	—
走行キロ数 〔1日平均〕	87.5千km	87.9千km	0.4千km
経常損益	23億円	19億円	△4億円
利益剰余金	85億円	92億円	7億円
資金剰余金	34億円	56億円	22億円
年度末企業債残高	44億円	47億円	3億円

(3)お客様数の状況

ア 市バス 1日当たりお客様数内訳

(単位：千人/日，%)

	29年度	30年度	増減	増減率
市バス全体	368	364	△ 3.6	△ 1.0%
うち定期	90	93	3.6	4.0%
うち定期外	205	199	△ 5.7	△ 2.8%

自然災害による減 △2千人/日

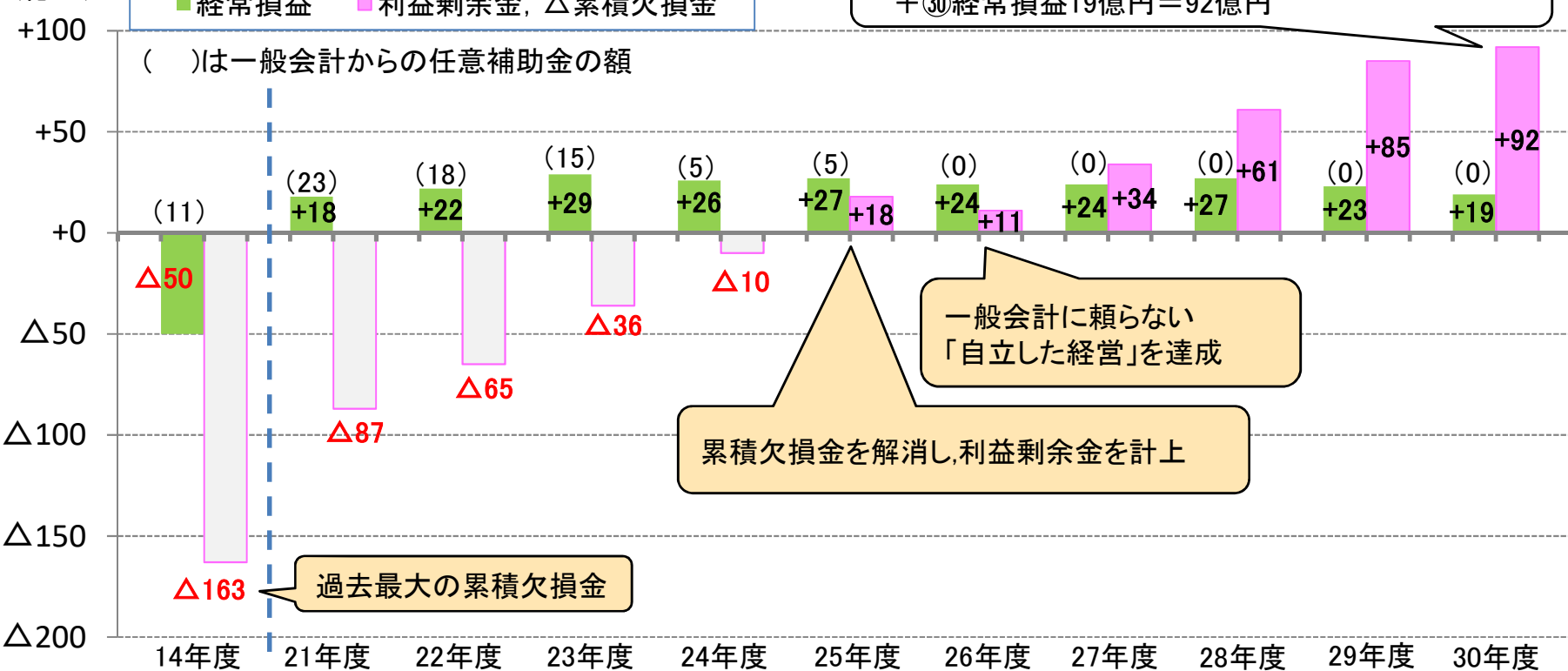
イ 地下鉄・市バス 1日当たりお客様数

(単位：千人/日，%)

	29年度	30年度	増減	増減率
地下鉄	387	397	9.2	2.4%
市バス	368	364	△ 3.6	△ 1.0%
合計	755	761	5.6	0.7%

(4)経常損益及び利益剰余金等の推移

(億円)



2 主要事項

(1) 路線・ダイヤの充実

【30年3月実施の新ダイヤ】 車両を10両増車(808両→818両)

ア 通勤・通学系統等の増便

(ア) 朝ラッシュ時間帯の増便

西大路通(205号系統), 四条通(3号系統)

(イ) 大学への通学輸送の充実

- ・立命館大学, 京都産業大学, 佛教大学に係る系統の更なる増便
- ・京都駅と京都大学・京大病院を結ぶ「京大快速」の新設

イ 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった生活路線・ダイヤの拡充

増便：北区西賀茂北部(柘野)地域, 西京区福西学区, 松陽学区
 新たな運行：上京区仁和学区(9~10回/日(毎日))



試行運行を開始した52号系統
(上京区仁和学区)



【31年3月実施の新ダイヤ】 現行の輸送力を最大限活用

ア 堀川通の混雑対策

「二条城・金閣寺エクスプレス」の停車停留所の追加(四条堀川, 堀川今出川)及び系統番号(急行111号系統)の付与による
 分かりやすさの向上

イ 夜間時間帯の運行充実

(ア) 四条界わい→千本通方面(46号系統, 55号系統の増便)

(イ) 北大路駅→西大路通・河原町通方面(205号系統の増便)

ウ 停留所間の距離が長い区間への停留所の新設(3停留所)

(2) 混雑対策の推進

ア 金閣寺道停留所における生活系統と観光系統の分離 [試行実施]

イ 前乗り後降り方式の導入(100号系統・東山シャトル(臨時便))

ウ 観光系統車両の分かりやすさ向上

観光系統を一目で識別できるヘッドマーク(観光系統全車両)や
 パートラッピング(観光系統2両)の導入

エ 大型手荷物に対応したバス車両の試行導入(44両)

オ 市バスから地下鉄への利用促進及び手ぶら観光の推進

(ア)地下鉄・バス一日券の値下げ等(30年3月実施)

地下鉄・バス一日券:1,200円→900円(二日券:2,000円→1,700円)
 バス一日券:500円→600円

(イ)関西国際空港等から入浴されるお客様に対し, キャリーバグ等を配送する手ぶら観光カウンターや地下鉄も上手に利用した観光をPR

(ウ)語学が堪能な学生スタッフが京都駅等において交通・観光情報を案内する“おもてなしコンシェルジュ”の活動期間を拡充

㉙151日→㉚177日

(エ)京都駅へ向かわれるお客様に対し, 市バスから地下鉄へ無料で乗り換えられる「振替輸送」の拡充



観光系統
ヘッドマーク

東山三条停留所→地下鉄東山駅
 ㉙9日間 → ㉚18日間
 金閣寺道停留所→地下鉄北大路駅
 ㉙ — → ㉚18日間



観光系統パートラッピング



前乗り後降り方式の導入(100号系統)

(3) 魅力あるバス待ち環境の創出

- ア 周辺部等におけるバス停上屋の整備など(45箇所)
- イ ソーラー式バス停照明の設置(157箇所)
- ウ 地域の皆様や事業者等の方々の御協力によるバス待ち空間「バスの駅」の整備(10箇所)
- エ バス接近表示器(20箇所), ベンチ(45箇所)の整備
- オ 京都駅前バスターミナルBのりばへのドライ型ミスト装置の設置



「バスの駅」久我御旅町(南行)



「バスの駅」京都経済センター

(4) 安全運行の推進等

- ア 歩行者等にバスの接近をやさしい音声やメロディでお知らせする注意喚起装置の設置
- イ 夜間乗降時の転倒事故を抑制するため乗降口灯をLED化
- ウ 安全運転訓練車を活用し, 車内転倒や接触等による事故防止に向けた研修を実施
- エ 扉開閉時に注意喚起する案内放送の多言語化
- オ 稲荷大社前バス停(北行)にバス待ちスペースを整備し, 歩行者の安全性を確保

○走行10万km当たりの有責事故件数 ⑲0.238件 → ⑳0.237件(△0.4%)
○安全統括管理者を設置するなど安全対策の強化を図った19年度と比べ
半分以下に減少 ⑲0.548件 → ⑳0.237件(△56.8%)

【参考】主な公営交通の状況(公表されている数値を基に算出)

東京都: ⑲0.85件 → ⑲0.82件, 大阪市: ⑲0.84件 → ⑲0.58件,
神戸市: ⑲0.78件 → ⑲0.46件

(5) 多様なお客様サービスの拡充

- ア 地下鉄・バス一日券等の値下げ【再掲】
- イ 乗継利便性の向上(31年3月実施)
 - (ア)トラフィカ京カードの乗継割引額の拡充
- (イ)バス・地下鉄, 地下鉄・バス連絡普通券の値下げ

割引額 バス⇄地下鉄 60円→120円, バス⇄バス 90円→120円

割引額 60円→120円

- ウ 障害のある方や高齢の方など, 全てのお客様に快適に御利用いただけるよう, 交通サポートマネージャーの資格を有する運転士を養成

30年度の両事業 計87人
(H30~R2年度の3箇年で両事業 計約260人)

- エ 外国人観光客に対応するため市バス・地下鉄案内所に英語を話せるスタッフを常駐

京都駅前(2人), コトカ京都(2人),
烏丸御池(1人), 北大路(1人)

- オ 見やすいフルカラーLED式行先表示器の導入



フルカラーLED式行先表示器の導入

62両(今後, 全818両に導入)

(6) 増収増客や担い手の確保・育成のための取組

- ア 「明治150年」や「市バス90周年」関連イベントの開催による増収増客

【主な開催イベント】

- 企画展 明治150年記念「京都の交通事始め」
開催期間 平成30年10月6日~28日
- 市バス90周年記念「電車・バスファン感謝祭」
開催日 平成30年10月28日

- イ 市バス事業の直営化拡大等に伴うバス運転士や整備士の確保(大型二種免許未取得者を対象とした市バス運転士の新たな採用方式の導入)

バス運転士95人(うち免許未取得者35人), 整備士12人

3 財政状況（前年度決算からの増減）

（税抜額。ただし、資本的収支は税込額）

区 分		29年度決算(A)		30年度決算(B)		差引増△減(B-A)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営 業 収 益	212	66	214	47	1	81
	うち運 送 収 益	202	45	204	40	1	95
	営 業 外 収 益	2	53	2	28	△	25
	うち一 般 会 計 補 助 金		3		15		12
	うち長 期 前 受 金 戻 入	1	96	1	47	△	49
	収 入 計	215	19	216	75	1	56
	営 業 費 用	189	96	195	75	5	79
	うち経 常 人 件 費	71	77	74	02	2	25
	うち退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	3	84	2	86	△	98
	うち経費(管理の受委託・燃料費・修繕費等)	97	44	101	45	4	01
	うち減 価 償 却 費 等	16	91	17	42		51
営 業 外 費 用	2	54	2	00	△	54	
支 出 計	192	50	197	75	5	25	
差 引	22	69	19	00	△ 3	69	
特 別 損 益	1	17		0	△ 1	17	
再 差 引 (純 損 益)	23	86	19	00	△ 4	86	
利 益 剰 余 金	85	12	92	34	7	22	
資本的収支	収 入	3	98	16	55	12	57
	うち企 業 債 金	3	63	16	43	12	80
	うち補 助 金		34		10	△	24
	支 出	48	15	31	44	△ 16	71
	うち建 設 改 良 費	21	18	16	68	△ 4	50
	うち企 業 債 償 還 金	13	87	13	42	△	45
	うち地 下 鉄 会 計 出 資 金	11	90		0 ※	△ 11	90
うち一 般 会 計 納 付 金	1	20	1	34		14	
差 引	△ 44	17	△ 14	89	29	28	
資 金 剰 余 額	34	04	56	25	22	21	
年 度 末 企 業 債 残 高	43	57	46	58	3	01	

※市バス会計の厳しい財政状況から、30年度予算で計上していた地下鉄会計への出資金13億43百万円を出資しなくても、地下鉄会計の累積資金不足が予算より改善する見込みであったことを踏まえ、当該出資をしないこととした。

高速鉄道事業

1 決算概要

過去最高であった昨年度より5千6百人増

○ 1日当たりお客様数は39万7千人(市バスと合わせて76万1千人)

- ・ JR西日本や阪急との連絡定期券の発売, 朝夕の通勤・通学時間帯における烏丸線の増便など8年ぶりとなるダイヤの全面改正などの利便性向上策や市バスから地下鉄への利用促進の取組により, 1日当たりのお客様数は, 39万7千人となり, 前年度比9千2百人増と定期券を中心に大幅な伸び

「地下鉄・バス一日券」の発売枚数 約3倍

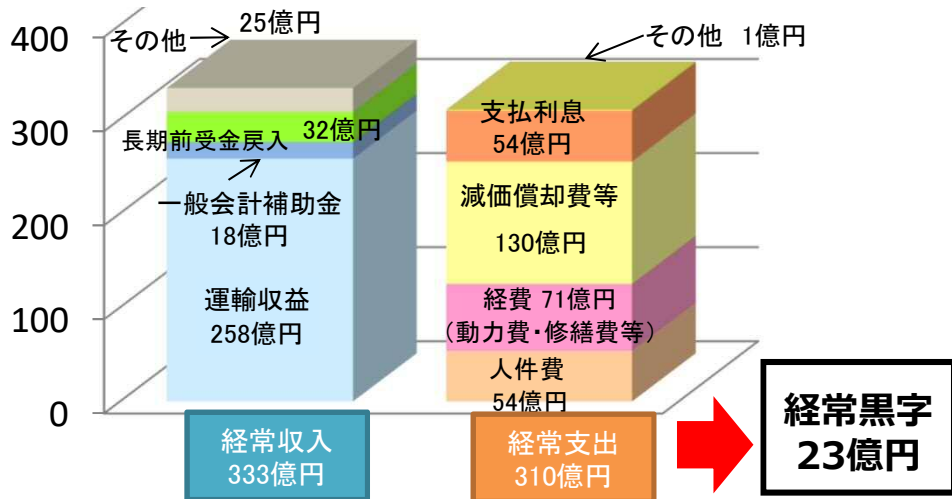
○ 経常損益は, 4年連続の黒字(23億円)を計上するも, 依然, 多額の有利子負債, 今後も引続き, 厳しい経営見通し

- ・ 安全対策を最優先に, お客様サービスの向上や増収増客にしっかりと取り組んだことにより, 経常損益は, 23億円の黒字(一般会計からの補助金18億円を含む)を計上
- ・ しかし, 依然, 有利子負債は3,843億円(企業債等残高3,529億円, 累積資金不足は314億円)
- ・ 今後10年間で, 烏丸線の車両更新や両線の設備更新等に740億円もの多額の費用を要するなど厳しい経営見通し

○ 今後10年間の経営計画として「経営ビジョン」を策定

- ・ 市バス・地下鉄を将来にわたり安定的に運営し, 「市民の足」としての役割をしっかりと果たしていくことができるよう, 令和元年度から10年間を計画期間とする「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」を31年3月に策定

(1) 経常損益の状況



(2) 決算の主要数値

	29年度決算	30年度決算	差引増△減
在籍車両数	222両 [37編成]	222両 [37編成]	—
走行キロ数 [1日平均]	57.1千km	58.0千km	0.9千km
経常損益	2億円	23億円	21億円
有利子負債	3,938億円	3,843億円	△95億円
累積資金不足	309億円	314億円	5億円
年度末企業債等残高	3,629億円	3,529億円	△100億円

(3) お客様数の状況

ア 地下鉄 1日当たりお客様数内訳

(単位：千人/日，%)

年度	29年度	30年度	増減	増減率
地下鉄全体	387	397	9.2	2.4%
うち定期	153	160	6.6	4.3%
うち定期外	211	214	2.7	1.3%

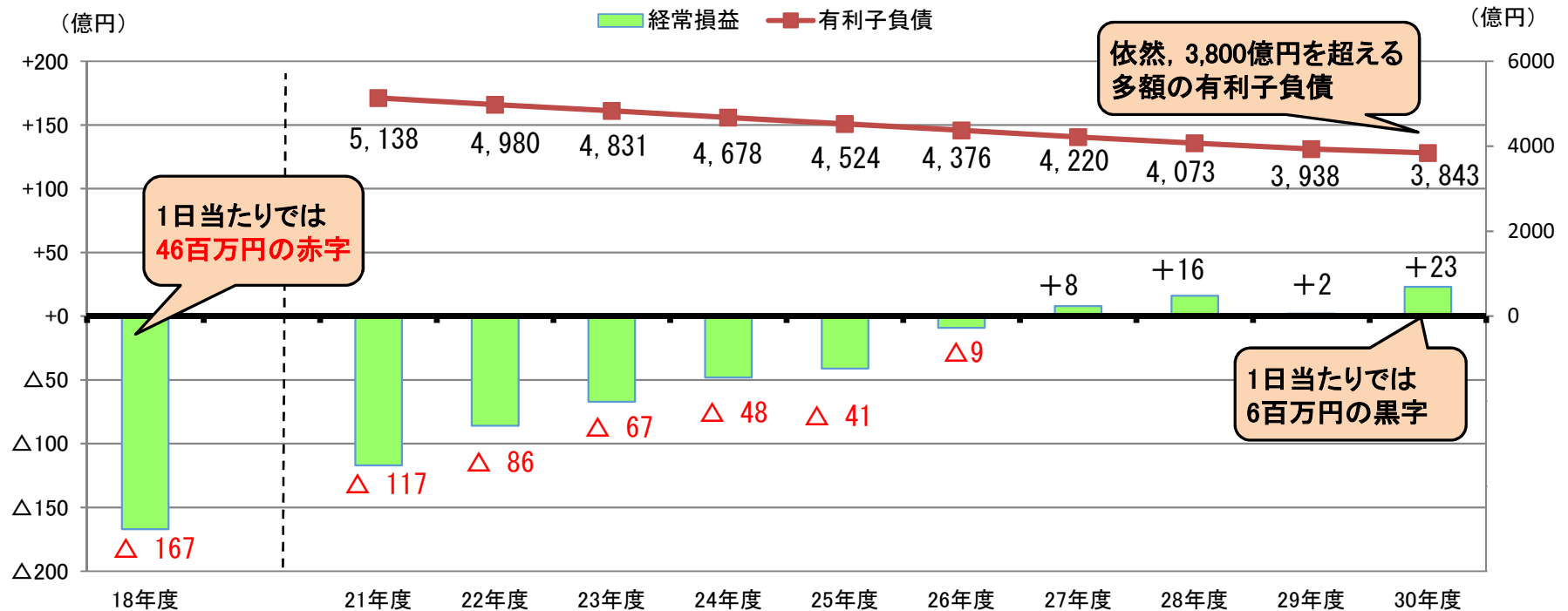
イ 地下鉄・市バス 1日当たりお客様数

(単位：千人/日，%)

	29年度	30年度	増減	増減率
地下鉄	387	397	9.2	2.4%
市バス	368	364	△ 3.6	△ 1.0%
合計	755	761	5.6	0.7%

(4) 経常損益等の推移

自然災害による減 △1千人/日



2 主要事項

(1) お客様増加策

ア 増便によるダイヤの充実(30年3月実施)

8年ぶりとなる
ダイヤ全面改正

(ア) 朝夕の通勤・通学時間帯における烏丸線の増便(4往復)

(イ) 京阪京津線のダイヤ改正に合わせ、京阪車両の乗入れについて京都市役所前駅止に換え、太秦天神川駅行を増便(25往復)

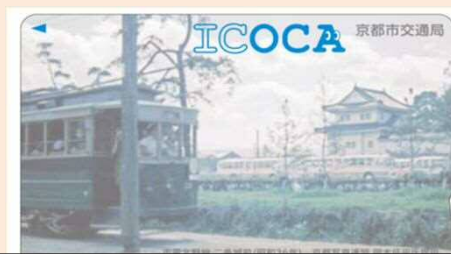


イ「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」、民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」における公共交通を活用した取組の推進

(ア) 地下鉄駅周辺の観光・集客イベントの開催



チーム「電車・バスに乗るっ」の取組
「太秦萌カフェ」の開店前の風景



【北野線 二条城前】
明治150年記念「市電デザインICoca」

(イ) 駅ナカビジネスや、大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクトなど、駅の魅力向上

(ウ) 地下鉄・バス一日券等の値下げや「太秦萌」などのキャラクターを活用したPRによる市バスから地下鉄への利用促進

(2) 安全対策等の推進

ア 安全対策

北山駅、丸太町駅

(ア) 烏丸線ホーム車掌用モニター設備の増設による安全対策の強化

(イ) 駅出入口への止水板の設置による浸水対策の強化



ホーム車掌用モニター
設備の増設



工事:1駅 6箇所(京都駅)
設計:3駅11箇所(六地藏駅等)

駅出入口への止水板の設置

(ウ) 障害のある方や高齢の方など全てのお客様が快適に地下鉄を御利用いただけるよう、交通サポートマネージャーの資格を有する駅係員を養成

30年度の両事業計87人
(H30~R2年度の3箇年で
両事業計約260人)



交通サポートマネージャー研修

イ 環境への配慮

(ア) 地下鉄車両車内灯及び駅照明のLED化の推進

東西線5編成(烏丸線は対象の11編成完了済)

北山駅、九条駅、竹田駅

(3)お客様サービスの向上

ア ICカード利用の環境整備

JR西日本, 阪急

(ア) 地下鉄と他社とのICカードによる連絡定期券の拡充
(30年3月実施)

(イ) IC定期券(通勤・継続)を発行できる自動券売機を全駅へ
拡大(30年9月実施)

一日券 1,200円→900円
二日券 2,000円→1,700円

イ 乗継利便性の向上

(ア) 地下鉄・バス一日券等の値下げ(30年3月実施)

(イ) トラフィカ京カードの乗継割引額の拡充(31年3月実施)

(ウ) バス・地下鉄, 地下鉄・バス連絡普通券の値下げ
(31年3月実施)

割引額 60円→120円

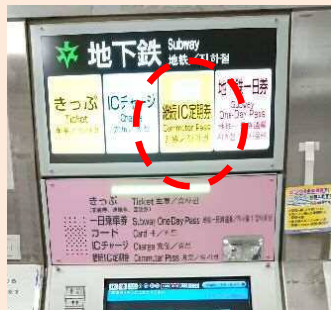
割引額 バス⇄地下鉄 60円→120円
バス⇄バス 90円→120円

ウ 増便によるダイヤの充実(30年3月実施)【再掲】

北大路駅, 丸太町駅, 五条駅

エ 障害のある方や高齢の方等へのサービスの向上

(ア) 無人改札口へのIC対応型多機能インターホンの設置
(全無人改札口に設置完了)



IC定期券(通勤・継続)発行対応の
自動券売機



IC対応型多機能インターホン

(イ) 障害のある方や高齢の方など全てのお客様が快適に
地下鉄を御利用いただけるよう, 交通サポートマネージャー
の資格を有する駅係員を養成【再掲】

オ 外国人観光客へのサービスの向上

京都駅前(2人), コトチカ京都(2人),
烏丸御池(1人), 北大路(1人)

(ア) 外国人観光客に対応するため市バス・地下鉄案内所に
英語を話せるスタッフを常駐

(イ) 外国人観光客にも分かりやすい全線路線図への全面更
新(QRコードによる4箇国語対応を新たに実施)

(ウ) 車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進



車内案内表示装置等の4箇国語対応

カ トイレのリニューアル(鞍馬口駅)



鞍馬口駅トイレのリニューアル

キ 烏丸線新型車両(9編成)のデザイン決定



新型車両のデザイン(懇談会等での意見を踏まえた複数のデザイン
案から市民や御利用者の投票により決定)

3 財政状況（前年度決算からの増減）

（税抜額。ただし、資本的収支は税込額）

区 分		29年度決算(A)		30年度決算(B)		差引増△減(B-A)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営 業 収 益	278	67	282	56	3	89
	うち運輸 収 益	253	66	257	73	4	07
	営 業 外 収 益	41	08	50	51	9	43
	うち一般会計補助金	7	78	17	94	10	16
	うち長期前受金戻入	32	89	32	11	△	78
	収入計	319	75	333	07	13	32
	営 業 費 用	255	41	254	46	△	95
	うち経常人件費	52	46	52	76		30
	うち退職給付引当金繰入額	3	09	1	47	△	1 62
	うち経費（動力費・修繕費等）	69	84	70	64		80
うち減価償却費等	130	02	129	59	△	43	
営 業 外 費 用	62	22	55	28	△	6 94	
支出計	317	63	309	74	△	7 89	
差 引	2	12	23	33	21	21	
現 金 収 支	94	06	118	24	24	18	
特 別 損 益		0		0		0	
再 差 引（純損益）	2	12	23	33	21	21	
△ 累 積 欠 損 金	△3,075	02	△3,051	69	23	33	
資本的収支	収 入	334	32	324	07	△	10 25
	うち企 業 債	242	19	293	43	51	24
	うち補 助 金	5	92	5	68	△	24
	うち出 資 金	85	77	23	32	△	62 45
	（経営健全化対策出資金）	51	14		0	△	51 14
	（市バス会計出資金）	11	90		0※	△	11 90
	支 出	435	24	464	07	28	83
	うち建 設 改 良 費	95	88	98	93	3	05
うち企 業 債 償 還 金	329	17	354	80	25	63	
差 引	△	100 92	△	140 00	△	39 08	
有 利 子 負 債 総 額（a + b）	3,938	17	3,843	09	△	95 08	
累 積 資 金 不 足 a	309	19	313	63	4	44	
年 度 末 企 業 債 等 残 高 b	3,628	98	3,529	46	△	99 52	

※30年度予算で計上していた市バス会計からの出資金13億43百万円を受け入れなくても累積資金不足が予算より改善する見込みであったことから、市バス会計の厳しい財政状況を踏まえ、当該出資金を受け入れないこととした。